

JForest

栗駒高原森林組合だより

やまびこ

第34号

平成30年12月1日

発行・編集

栗駒高原森林組合

栗駒桜田街道西11の96

TEL(0228) 45-3311

FAX(0228) 45-3312

http://kurishin.ec-net.jp



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター東北北海道整備局“植樹祭”

(6頁に関連記事)

目

次

- ◇林業の成長産業化に向けて…………… 2
- ◇活性化協議会視察研修…………… 3
- ◇職員連盟全国大会…………… 4
- ◇第31回優良みやぎ材展示即売会…………… 4

- ◇樹木の豆知識シリーズ⑳…………… 5
- ◇木材市況〔10月〕…………… 5
- ◇“植樹祭”…………… 6
- ◇職員の採用募集…………… 6
- ◇係より…………… 6

林業の成長産業化に向けて



代表理事組合長
佐藤 則明

栗原市内の55%を占める森林は、木材の生産のみならず環境や国土保全上重要な資産であると共に、我が国が有する数少ない「豊かな資源」の一つであります。森林が有する多面的機能を失うことなく木材を活用し、地域に経済的価値をもたらすべく、林業・木材産業の成長化に向け森林組合は取り組んでいかなければなりません。

昭和30年代から国を挙げて造林に取り組んで半世紀を経た森林は、毎年蓄積量が増加し、今後も増加し続けていくと予想されています。蓄積は素材生産量(利用量)を上回っていると言われ、人口林は45〜55年生がピークで、伐期適齢森林が5割に達しまさに利用期を迎えており潜在供給力は十分あります。

一方、国内の木材需要量はバブル景気崩壊から低下し、ピーク時の6

割程度迄減少しましたが、平成22年から徐々に上昇傾向になってきました。国産材供給量は自由化による外材に押され減少を続けてきましたが、平成22年から上昇期に入りました。自給率も平成14年を底に(自給率最低18・8%)増加傾向に転じ、現在は35%までに回復してきました。

一つには、国内の森林資源が充実し、国産材の安定供給を期待し国産材への切替が進んできたこと。二つには海外事情として地球環境問題から森林の伐採に制限が加えられたことがあります。このように豊富な森林資源、国産材への需要の高まりを背景として、栗駒高原森林組合はこの機を逃すことなく林業・木材産業の成長産業化へ進んでいかなければなりません。しかし課題もあり、課題克服がカギとなります。

(1) 林業の生産性の向上とコスト削減

(2) 価格の低迷と荒廃森林の拡大の歯止め 等です。

どちらも大きなハードルですが、これを越えなければなりません。

(1)については森林組合の更なる自助努力が求められます。他の林業

事業者より生産費が高い現況を検証して改善を図らなければなりません。路網整備と高性能林業機械等による生産性の向上が必要です。これは職員と現場技術者の更なる技術力向上を図り一人当りの生産量を上げコスト削減を図っていく必要があります。常にコスト意識をもって業務にあたらなければなりません。

(2)については丸太販売をこれまで以上に製材所等に直送販売し、安定供給、安定価格を図り価格低迷から抜け出していかなければなりません。現在での平均材価格は底から抜け出しています。組合員の「森林経営計画」の推進を図り集約化を進め間伐等森林整備の施策に最大限取り組んできました。結果として、組合員の森林からの収入増に結び付けました。年間実行量100haの目標を達成でき、価格の低迷、荒廃森林の歯止めになっていきます。

今後の課題は小面積で点在している森林の整備です。このことは平成31年度から始まる「新たな森林管理システム」を有効に利用することで解決の道が見えてくると期待しています。このシステムは財源として森林環境税(仮称)を充当します。森林のうち経営可能ながら管理が行われていない森林については意欲と能力のある林業経営者(森林組合等)にお

願いすることになります。このことよって手が入らなかった多くの森林が継続的に管理されることとなります。林業経営に適さない森林については市町村自ら間伐等の森林整備を行うシステムです。

林業を成長産業として継続させるためには、永続的に産業活動を引き継いでいく再造林が必須となります。しかし現在の再造林は高コスト非効率であり、林家にとって初期投資が経営を圧迫し意欲に乏しいのが実情です。伐採と植林を同時並行して行う一貫作業システムの開発等効率化に取り組んでいかなければなりません。更に再造林促進のための補助制度の利用、公的機関との分収林契約も念頭に、資源の安定的循環システム構築を国をあげて取り組む必要があります。

これらを推進することによって林業の成長産業化が図られていきます。森林整備の重要性は国民皆が承知しているところです。我々はこれらを進めながら、経済活動を行っていきまます。自然の中で自然と親しみ、汗を流し、作業の出来形が直接感じられる仕事に誇りをもって、林業の成長産業化を担ってまいります。組合員皆様の林業の経済活動を支援していきます。



宮城北部流域森林・林業活性化センター栗原支部『活性化協議会視察研修』

平成30年10月16日(火)／山形県新庄市

宮城北部流域森林・林業活性化センター栗原支部活性化協議会視察研修が、支部会員13名参加のもと、山形県新庄市の協和木材株式会社新庄工場で開催されました。

協和木材株式会社新庄工場は、新庄市福田地内の新庄中核工業団地に二区面で12ヘクタールの用地を取得し、総事業費約38億円で建設され平成28年に完成しました。国産材集成材工場で平成29年から本格稼働し、全てが構造材の管柱を生産します。年間スギ丸太原木12万立方メートルを使用し製品3万6千立方メートルを生産していました。従業員は67名で殆どが地元雇用で2シフト24時間体制をとっており、原材料のスギ丸太は休日でも受け入れています。



原材料の2メートルのスギ丸太(末口14～40センチメートル)は、ストックヤードからリングバーカーへ搬入、ラミナに製材され乾燥棟に搬入。乾燥ヤードから2メートル限定のラミナが搬入され、様々な加工過程を経て、工場の真ん中に設置している巨大な自動倉庫に一旦格納されます。その自動倉庫から必要に応じてラミナ荒仕上げライン、フィンガージョイントラインに投入され、ラミナ仕上げライン、回転コンポーザーラインに入り、仕上げ格付け後梱包し製品となっていました。

新庄工場は、ラミナ材の生産から管柱完成品まで一貫していました。特徴としては、原材料のスギ丸太は2メートルであること。もう一つは製品の全てが管柱であることで、生産ラインがシンプルでラインも極めてわかりやすく、材料の流れも非常にスムーズであるように感じました。また、販売先は関東、関西、北陸地方のハウスメーカーに随時出荷されており、需要が多く今後増産体制を図っていくようです。

国産管柱専門工場として国内最強の工場の一つであり、住宅用集成材の国産材比率を大いに高める要因となっていました。



全国森林組合職員連盟全国研究集会

平成30年7月6日～8日／宮崎県宮崎市

全国の森林組合職員230名が出席し、平成30年全国森林組合職員連盟全国研究集会が宮崎県宮崎市で開催されました。

森林組合綱領唱和、関係者挨拶の後特別講演、事例発表がおこなわれました。

特別講演では、競泳オリンピックメダリスト・スポーツジャーナリストの松田丈志氏による「夢を喜びに変える自超力」と題して、何事に対しても思いを共有して喜び合えるよう、しっかりとモチベーションを持つ大切さについて、系統代表者による事例発表では、都城森林組合の「コンテナ苗による再造林の推進」、大分県森林組合連合会の「ドローン測量による造林申請業務について」、曾於地区森林組合の「木材輸出戦略協議会の取り組み」では、九州地方における先進の取り組みについての事例発表でした。

2日目の現地視察は、昨 year 天皇杯を受賞した宮崎県児湯郡川南町の林田農園で、年間35万本の苗木を生産していました。挿し木コンテナ苗は10万本生産し、Mスターコンテナ苗の生産技術開発とスギ品種系統を重視した苗木生産やコンテナ苗生産の普及拡大にも積極的に取り組んでいました。宮崎県は皆伐事業が進み造林事業が発注されても苗木が不足していることから、再造林の進捗が悪い状況となっていました。

現地視察を最後に、2日間の全国森林組合職員連盟全国研究集会の幕を閉じました。



◆ 第31回優良みやぎ材展示即売会 ◆

平成30年11月14日(水)／宮城県森林組合連合会 大衡綜合センター

秋の優良みやぎ材展示即売会が、大衡綜合センターを会場に開催された。

当日の出品量は1,978 m³、販売量1,776 m³、販売率90%、平均価格13,253円であった。出品量としては平年並みで、当組合でも約13 m³を出荷した。

落札状況として、春よりも値上がり傾向が見られ大径木の流れが良くなってきた。また、広葉樹ではケヤキが相変わらずの不落、黒柿は当日の高値を記録した。



樹木の豆知識シリーズ②④

「イタヤカエデ」ってなあに?

◎「イタヤカエデ」ってどんな木?

「イタヤカエデ」はカエデ科の落葉高木。北海道から九州まで広く分布し、高さ15～20mになる。生育地が広い為環境による変種が多い。また樹齢によっても変化が見られる。葉が開く前に黄緑色の花が一面に咲くので、遠くから眺めると新緑のように見える。

◎名前の由来

葉が重なって茂る様子が、板でふいた屋根のように雨が漏らないということからこの名がついたとされる。

◎用途

カエデの仲間では最も大きく育ち、材が白くて美しく弾力性に富むことから建材、器具材の他家具、バット、スキー板などに使われる。



▲イタヤカエデ (円内)若い実

= 木材市況 [10月] =

価格：1m³当たりの単価

	樹種	材長	径級	高値	中値	安値	比	備考
仙 北	スギ	3.00	14～16	—	—	—	—	市日 23日
			10～13直曲	11,500	11,160	4,680	△	出品量 774m ³
			14～18	11,500	11,160	5,400	△	販売量 774m ³
			20～28	12,300	11,880	8,500	△	販売率 100%
			30上	12,600	11,880	8,500	△	販売額 7,480千円
	1.95	16上	7,200	6,120	2,880	—	平均額 9,664円	
大 衡	スギ	3.00	20～30	12,000	10,800	5,400	△	市日 11日
			10～13直曲	11,500	10,800	5,400	△	出品量 465m ³
			14～18	11,500	10,800	5,000	△	販売量 383m ³
			20～28	12,500	11,520	8,500	△	販売率 82%
			30上	13,000	11,520	8,500	△	販売額 2,970千円
	2.00	16上	7,200	6,120	2,880	—	平均額 7,755円	

《△：上げ ー：保合 ▽：下げ》※安値は曲材の価格です。

概況：各センターへの入荷は少なかったが、岩出山・津山には新材の入荷があり、動き価格とも順調だった。各製材所は在庫確保も含めた本格的な仕入れに入ったことから、価格は全てに於いて値上り傾向になり、今後暫くは高値での取引が続くと思われる。

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林整備センター東北北海道整備局“植樹祭”

11月7日(水)国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター東北北海道整備局の植樹祭が花山本沢明通造林地を会場に開催されました。

植樹祭には、関係機関と栗原市立花山小学校の生徒、先生方63名が参加され栗原の市木であるヤマボウシ6本とスギのコンテナ苗300本を記念植樹しました。今回の植樹祭は「未来へつなごう 豊かなみどり」をテーマに児童に森林の働きを説明し、森林を育成する大切さを理解してもらうと共に、森林をつくる第一歩である植樹を体験する目的で行われました。植樹終了後、栗駒文字葛峰造林地に移動し高性能林業機械見学森林教室を開き、ハーベスタ(伐倒造材機械)作業を実際に見学し、生徒からは活発な意見質問が出されていました。



《職員の採用募集》

採用日	選考方法	募集期間	採用基準	人数	職種
平成31年4月1日付	筆記試験 面接試験	平成30年10月下旬から 平成30年12月25日迄	年齢 30歳まで 学歴 高校卒 (新卒見込)以上 給与 職員給与規程による	1名	職員

1 就職を希望される方は、ハローワーク築館を通じて申込み下さい。
◇応募書類
ハローワーク紹介状
履歴書(自筆、写真添付)
職務履歴書

2 採用試験は、平成31年1月19日
3 採用内定は、平成31年1月下旬

◇お申込み・お問い合わせ先
総務課 0228-4513311

係より
組合員のみなさんへ

相続加入手続きについて

組合員が死亡した場合、届出が必要になります。相続加入手続きをお願いいたします。

承継加入手続きについて

組合員が後継者に山林を贈与した場合、届出が必要になります。

住所変更について

組合員が住所を変更した場合、届出が必要になります。

◎詳しくは、総務課にお問い合わせ下さい。
045-13311